

本庄市水道事業ビジョンにおける施策への取組実績及び状況（令和5年度）

施策1 水質管理のさらなる強化（安全）
 <本庄市水道事業ビジョンP38、P39>
 2023年目標値を達成

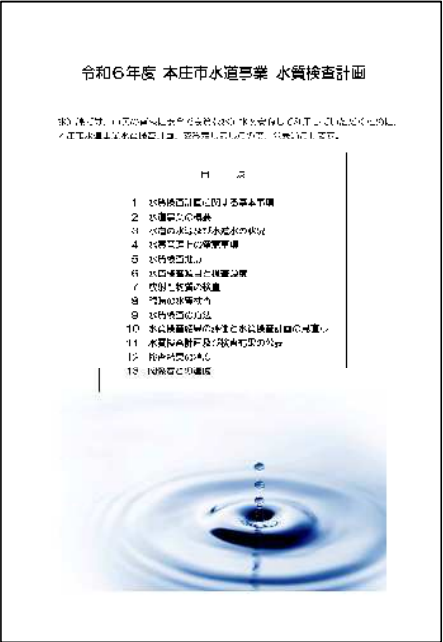
表1 施策1（安全）における取組事業一覧

取組事業	取組内容	令和5年度取組みの実績
1－1 水質検査の適切な実施	- 水質検査計画の継続的な実施 - 水質自動計測装置の拡充	令和5年度本庄市水道事業水質検査計画に基づき、指定した水質検査地点の検査をすべて実施し、異常が無いことを確認しました。
1－2 水安全計画の策定と運用	計画策定と計画運用	本庄市水安全計画に基づく水安全委員会を開催し危害分析や今後の取組方針等を確認しました。
1－3 貯水槽水道の衛生管理向上に向けた啓発活動の実施	設置者に対して年3回程度の啓発活動を継続的に実施する。	令和5年6月に「広報ほんじょう6月1日号」にて設置者への啓発記事を掲載するとともに、ホームページにおいても適切な衛生管理を促すための広報を行いました。

表2 施策1（安全）における成果指標

指標項目	H 2 8 実績 2 0 1 6	R 3 実績 2 0 2 1	R 4 実績 2 0 2 2	R 5 実績 2 0 2 3	目標値	
					2 0 2 3	2 0 2 9
水質自動計測装置の設置数（箇所）	3	3	3	4	4	5
平均残留塩素濃度（m g ／ l ） 残留塩素濃度合計※／残留塩素測定回数	0.48	0.38	0.39	0.37	0.40以下を目指す	
水質基準不適合率（％） （水質基準不適合回数／全検査回数）× 1 0 0	0	0	0	0	0％を維持	

※残留塩素濃度測定は、365日市内7箇所で開催しています。（本庄地域3箇所、児玉地域4箇所）



【水質検査計画】



【水安全計画】



【新たに設置した水質自動計測装置・本庄市児玉文化会館（セルディ）敷地内】

施策2 水道施設の計画的耐震化と更新（強靱）

＜本庄市水道事業ビジョンP40、P41＞

表3 施策2（強靱）における取組事業一覧

取組事業	取組内容	令和5年度取組みの実績
2-1 浄配水施設の計画的耐震化と更新	計画目標年度までに、次の施設の耐震化工事に着手 ・ 第二浄水場耐震化工事 ・ 児玉浄水場耐震化工事	・ 施設利用率の減少が進行していることから、水道施設の統廃合やダウンサイジングなどの最適化の検討を進めるとともに、第二浄水場の耐震化を進めるための検討を始めました。
2-2 管路の計画的耐震化と更新	計画目標年度までに更新延長を次の水準に改善 ・ 基幹管路（φ400mm以上）：0.4km/年 ・ 基幹管路（φ350mm以下）、重要管路：1.3km/年 ・ 配水支管φ150mm～φ350mm：0.7km/年 ・ 配水支管φ100mm以下：2.1km/年	・ 令和5年度の管路更新については、配水支管（φ150mm～φ350mm）を約0.6km、配水支管（φ100mm以下）を約2.3km更新しました。

表4 施策2（強靱）における成果指標

指標項目	H28実績 2016	R3実績 2021	R4実績 2022	R5実績 2023	目標値	
					2023	2029
浄水施設の耐震化率（％） （耐震対策の施された浄水施設能力／全浄水施設能力）×100	0	0	0	0	4.1	27.4
配水池の耐震化率（％） （耐震対策の施された配水池有効容量／配水池等有効容量）×100	21.9	21.9	21.9	21.9	32.4	46.8
基幹管路の耐震適合率（％） （基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長／基幹管路延長）×100	34.7	37.2	37.4	37.5	46.5	60.0
管路の事故割合（件／100km） 管路の事故件数／（管路延長／100）	0	0	0	0	0	0



【耐震化工事を必要とする第二浄水場第3配水池】

施策3 危機管理体制の強化（強靱）

＜本庄市水道事業ビジョンP42、P43＞

表5 施策3（強靱）における取組事業一覧

取組事業	取組内容	令和5年度取組みの実績
3-1 危機管理マニュアルの改訂	・ マニュアルの改訂と運用	・ 水道管の破損による断水や漏水事故、冬場の凍結に伴う給水装置の破損などが発生した場合の初動から応急対応までの行動を定めたマニュアルを策定しました。
3-2 応急対策の拡充	・ 整備、拡充の取組みを実施 ・ 民間企業との協力協定の締結	・ 災害時における給水体制の確保を目的に、応急給水資機材として飲料水袋の備蓄を進め、令和6年3月31日現在、約7200袋を備え計画の約121.4%となっております。 ・ 建物火災対策として防災部局と連携し、消火栓を3基新設するとともに老朽化した消火栓17基の交換を行いました。
3-3 他事業体との相互応援体制の強化	・ 相互応援体制強化への取組みを実施 ・ 災害時連絡管に係る検討	・ 埼玉県企業局と連携し、行田浄水場の施設が故障した際の危機対応訓練を実施しました。 ・ 本庄市業務継続計画（BCP）に基づく訓練を実施しました。 ・ 令和6年能登半島地震の被災者支援のため、日本水道協会関東支部からの要請により応急給水活動を1月と3月に実施しました。

表6 施策3（強靱）における成果指標

指標項目	H28実績 2016	R3実績 2021	R4実績 2022	R5実績 2023	目標値	
					2023	2029
飲料水袋備蓄達成率（％） （備蓄数／飲料水袋目標備蓄数）×100	16.7	69.1	79.4	121.4	58.3	100

※飲料水袋目標備蓄数は6,000袋
※令和6年3月末時点の飲料水袋備蓄数は7,286袋

施策4 既存施設の適切な運用と長寿命化（持続）

<本庄市水道事業ビジョンP44、P45>

表7 施策4（持続）における取組事業一覧

取組事業	取組内容	令和5年度取組みの実績
4－1 井戸の定期調査と長寿命化の実施	・ 調査、試験及び工事の実施	・ 令和5年度は該当する取組みはありませんでした。
4－2 機械・電気設備の保全	・ 計画的な保守、更新等の実施	・ 浄水場、配水場において配水ポンプや電気設備等の点検を行い、故障箇所の修繕を行いました。 ・ 都島浄水場の取水井戸の取水流量計が故障したことから、更新工事を行いました。
4－3 漏水率の改善	・ 漏水調査、補修の継続	・ 令和5年度は、配水管5件、給水管165件の漏水が発生し合計170件の修繕を行いました。 ・ 漏水調査については、本庄地域では、消火栓に音聴機械を設置した調査を実施し、児玉地域では、塩化ビニール管の漏水が多いことから従来方式の路線ごとの路面音聴方式により調査を実施しました。発見した漏水は54件あり、速やかに修繕を行いました。

表8 施策4（持続）における成果指標

指標項目	H28実績 2016	R3実績 2021	R4実績 2022	R5実績 2023	目標値	
					2023	2029
井戸の定期調査・長寿命化工事の実施数（箇所）	1	1	1	1	2	3
漏水率（％） （年間漏水量／年間配水量）×100	8.9	11.5	10.9	11.7	7.9	6.9



施策5 持続可能な経営の推進（持続）

<本庄市水道事業ビジョンP46、P47>

【配水管漏水の状況】

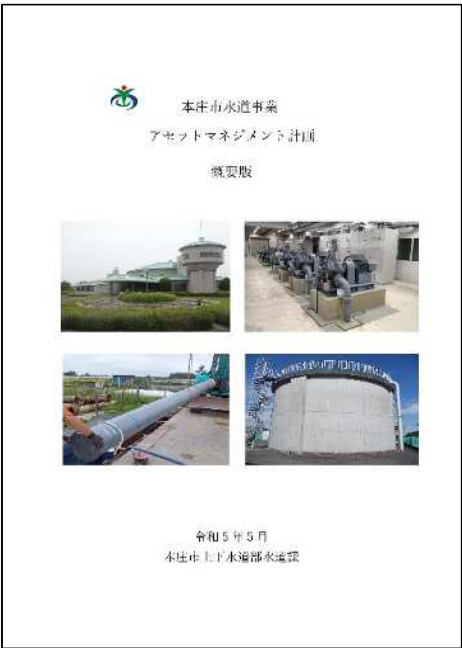
【給配水管漏水調査業務委託】

表9 施策5（持続）における取組事業一覧

取組事業	取組内容	令和5年度取組みの実績
5－1 健全な経営の維持	・ 業務効率化の推進、業務委託の検証 ・ 広域化の推進 ・ 財政収支見通しの策定と適切な料金水準の検討	・ 給水装置工事申請受付等の委託業務を拡充し、業務の効率化を図りました。 ・ 児玉郡市水道事業事務研究会を立ち上げ、広域化について協議しました。 ・ 令和5年5月に策定した「アセットマネジメント計画」に基づき、更新需要や長期財政見通しについて水道事業審議会で審議していただき、その結果を踏まえ、令和6年3月に適切な水道料金についての答申書を市長へ提出していただきました。
5－2 人材の確保と育成	・ 職員研修の強化 ・ 職員間情報共有方策の検討	・ 新型コロナウイルス感染症の終息を契機に、対面型の研修や埼玉県等が主催する動画配信研修に参加しました。 また、資金運用については、経営の強化を目的として、研修の充実を図りました。 ・ LoGoチャット（アプリケーション）を導入し、工事現場等の職員間の情報共有を図り、業務遂行の速度や正確さの向上に努めました。

表10 施策5（持続）における成果指標

指標項目	H28実績 2016	R3実績 2021	R4実績 2022	R5実績 2023	目標値	
					2023	2029
経常収支比率（％） 〔（営業収益＋営業外収益）／（営業費用＋営業外費用）〕×100	119.09	107.19	106.22	—	100％超を維持	
料金回収率（％） （供給単価／給水原価）×100	114.40	98.71	82.31	—	100％超を維持	
有収率（％） （年間有収水量／年間配水量）×100	90.98	88.47	88.94	88.13	92.0	93.0
水道技術に関する資格取得度（件／人） （職員が取得している水道技術に関する資格数／全職員数）	0.88	1.47	1.47	1.81	0.88	0.88
研修時間（時間／人） （職員が研修を受けた時間×受講人数）／全職員数	7.4	6.7	11.2	6.1	8.0	8.5



【令和5年5月に策定した本庄市水道事業アセットマネジメント計画】

施策6 情報提供の拡充と利用者の利便性の向上（持続）

<本庄市水道事業ビジョンP48>

表1-1 施策6（持続）における取組事業一覧

取組事業	取組内容	令和5年度取組みの実績
6-1 情報提供の拡充	・ 情報提供方法の検討 ・ 情報内容の充実	・ 「広報ほんじょう」に「水道週間」の記事を掲載するとともに、上下水道部の広報紙「ほんじょう 水だより」を年2回発行し、「アセットマネジメント計画」や「水道施設の災害対策」等について紹介しました。 ・ 断水・濁水が発生した際に、ホームページやLINE配信により迅速かつ正確な情報提供に努めました。
6-2 利用者の利便性の向上	・ 収納方法の多様化の検討	・ e L T A X（地方税ポータルシステム）を活用した公金納付のデジタル化について調査・研究を行いました。 ・ 法人利用者の方へのインボイス制度対応のため、上下水道料金システムを改修し、制度に適應した「水道使用量等のお知らせ（検針票）」に変更しました。さらに、インボイス対応のレジを購入し、利用者の利便性の向上を図りました。

表1-2 施策6（持続）における成果指標

指標項目	H28実績 2016	R3実績 2021	R4実績 2022	R5実績 2023	目標値	
					2023	2029
広報による情報の提供度（回／年）	2	5	10	8	4	4
電子申請利用件数（件／年）	190	681	661	753	210	230



【広報紙「水だより令和5年・第10号、第11号」】